事務事業評価シート

評価実施年度: 平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ−1−2 発達段階に応じた教育の振興

1	.事務事業の目的	• 概要	事務事業担当課長	学校企画課長	福間	俊行	電話番号	0852-22-5408		
事務事業の名称		高等学校奨学事業								
B	(1) 対象	高等学校等に在学する生徒								
的	(2)意図	奨学金を貸与することにより、修学の機会均等を図る。								
事業概要	公益財団法人島根県育	育英会が行う高等学校等奨	学資金事業に補助金の交付	を行う。						

2.成果参考指標

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
	指標名	適格者に対する貸与率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	
			取組目標値						%
ı	式•	貸与者数/貸与することが適当な申請者数	実績値	100.0	100.0				
	定義		達成率		100.0	_	_	_	%
	指標名		目標値						
2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		取組目標値						
_	式•		実績値						
	定義		達成率	_	_	_	_	_	%

3事業費

<u></u>						
	前年度実績	今年度計画				
事業費(b)(千円)	39,723	41,279				
うち一般財源(千円)	39,723	41,279				

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた 改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
-------------------------	------------------------

5.評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

貸与者枠人数 新規採用人数 予約奨学生 220 169 予約奨学生緊急奨学生 数名 11 107 在学奨学生 150 在学奨学生緊急奨学生 数名

予約奨学生、在学奨学生ともに目標どおりの採用ができており、目的は達成されている。奨学金貸与により、生徒の修学機会の確保に成果をあげている。 累積滞納額増加への対応として平成27年12月から返還金の回収が困難な事例を対象に債権回収委託(サービサー)を実施。委託債権のうち5.7%の回収があった。

6.成果があったこと (改善されたこと) ・債権回収 (サービサー) 委託により、回収が 困難な滞納金の回収ができた。

7.まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

今後、新たに返還が開始する対象者が増加するため、ピーク期にむけ過年度分の滞納額の増加が懸念さ れる。

②困っている状況が発生している「原因」

- 以下のことが背景にあると考えられる。 ・返還金納付者が経済的に困窮していること。
- ・返還金納付者の返還意識が低いこと。

③原因を解消するための「課題」

- ・債権回収(サービサー)の継続的活用。 ・滞納者への返還への働きかけの徹底。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方) ・債権回収 (サービサー) 委託の継続的活用を行っていく。